

『アムリタ・ビンドゥ・ウパニシャッド』第2節

シュローカ

人間にとって、マインドは束縛と解放、両方の原因である。形ある物質に執着するマインドは束縛の原因であり、一方で欲望から離れた自由なマインドは解放の原因である。

——『アムリタビンドゥ・ウパニシャッド』第2節

解説

『アムリタビンドゥ・ウパニシャッド』からのこの詩節は、2019年のグルマーイのメッセージの講話の中の、人間のマインドの無限の力についての教えに関連しています。何世紀にもわたって、古代インドの教典は、考えるものにあなたはなると、繰り返し宣言してきました。楽観的に考える時、喜び、勇気、そして満足などの美德に焦点を当てることを選ぶ時、それにより私たちが世の中で体験することもそれらの性質で満たされます。

この詩節の中の、サンスクリット語のカーラナは、「原因であること」もしくは「根源の場所」という意味です。マインドは私たちの人生において、幸福の根源でも、不幸の根源でもあります。それは束縛、すなわちバンダナの原因であり、解放、すなわちモクシャの根本でもあるのです。

この詩節は、マインドに、束縛や解放をもたらすものについてさらに説明しています。それは、どこにマインドが宿るかについてです。

詩節の中のニルヴィンチャヤという言葉は、物質世界に絡み付かれず、欲望や恐れに縛られず——この世界に生きていながら自由であるマインドの一つの境地を意味しています。

シッダ・ヨーガの道において、執着しないという概念は、人生の責任を放棄することでも、思いやりを持たず冷徹になることでもありません。むしろ、自分の義務を果たしながら、同時に、私たちの内側にあるすべての知識、愛、喜びの源である大いなる自己の中心にマインドがとどまることを確実にしながら、この世界に生き続けるという意味です。私たちが外側に探し求めている喜びや愛、そのすべての源は実は内側にあるのだというその認識を持って行動する時、私たちは自然に、この甘美な執着のなさや深い癒やしと共にいることに気づきます。

この安らかで執着しないことを体験するための基本的な方法の一つは、瞑想、グルの教えを学ぶこと、マントラを復唱するといった時代を超越した精神修行を力強く規則的に行うことです。これらの精神修行は、マインドをその源、内側の至高なる自己に定着させるのです。

